

市の財政事情

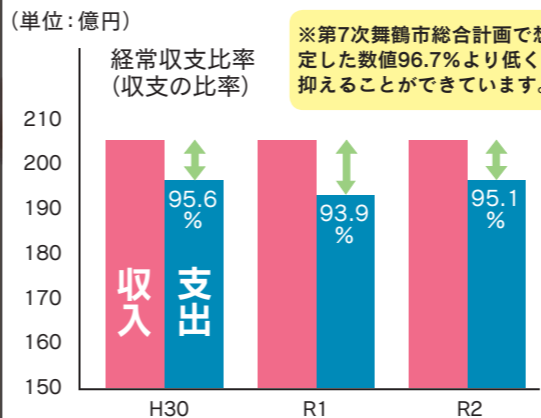
舞鶴市財政の現状

市税などの毎年度決まって入ってくるような収入に対し扶助費など経常的な支出にどのくらい割り当てられているかを示すものを経常収支比率といいます。

インフラなどが一定整備され、優先すべき施策が福祉や子育て、教育などの充実にシフトしており、多くの自治体でも経常収支比率は総じて上昇傾向です。

今後も市税収入などが減少することが見込まれることから、新たな財源確保や事業の見直しにより、収入と支出のバランスをとりながら必要な市民サービスを提供していきます。

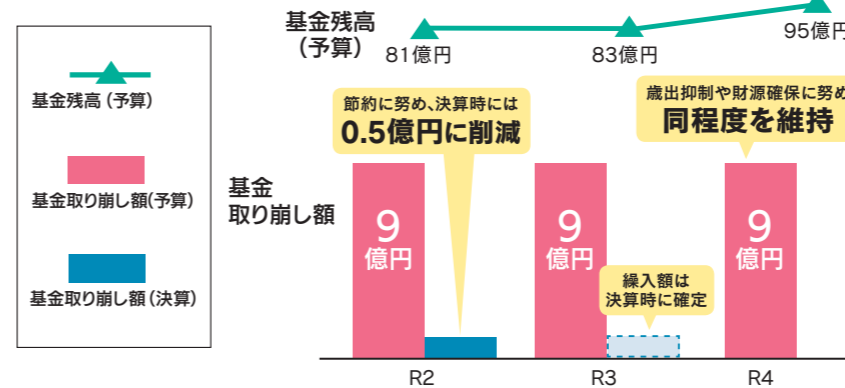
舞鶴市の決算の推移(一般会計)



持続可能な財政に向けて

■基金の取り崩し額の抑制

基金とは、災害など予期せぬ支出や税収等収入の減少、公共施設の整備などに備える舞鶴市の貯金です。市民生活に密着した施設の整備など、将来に向けて必要な投資に活用する一方で、残高にも留意しつつ運営を行っており、現在の基金残高予算は約95億円となっています。



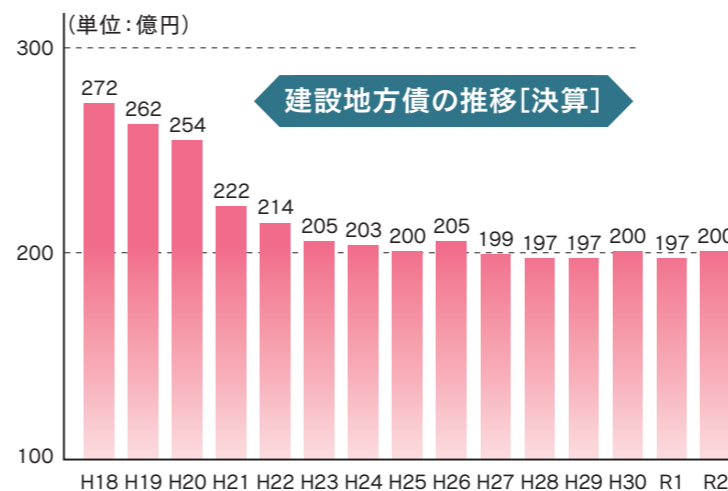
■建設地方債の新規発行額を抑制

建設地方債は、道路・河川の整備や災害復旧など、一度に多額の費用が必要な時に借り入れるお金です。

地方債には、数十年にわたり使用する施設を、今の税金を納めている世代だけが負担するのはなく、施設を使用する次の世代にも負担してもらふことで世代間の公平性を保つ機能もあります。

災害に強いまちづくりに必要な道路や河川、生活に密着する清掃事務所等の大型施設の整備などで残高は増えましたが、返済額より少ない借入額とすることで、将来世代の負担を抑制する予算の編成を心がけています。

建設地方債の推移[決算]



「ビヨンド・コロナ社会」の構築につながる「ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らし」を実現させる施策を推進

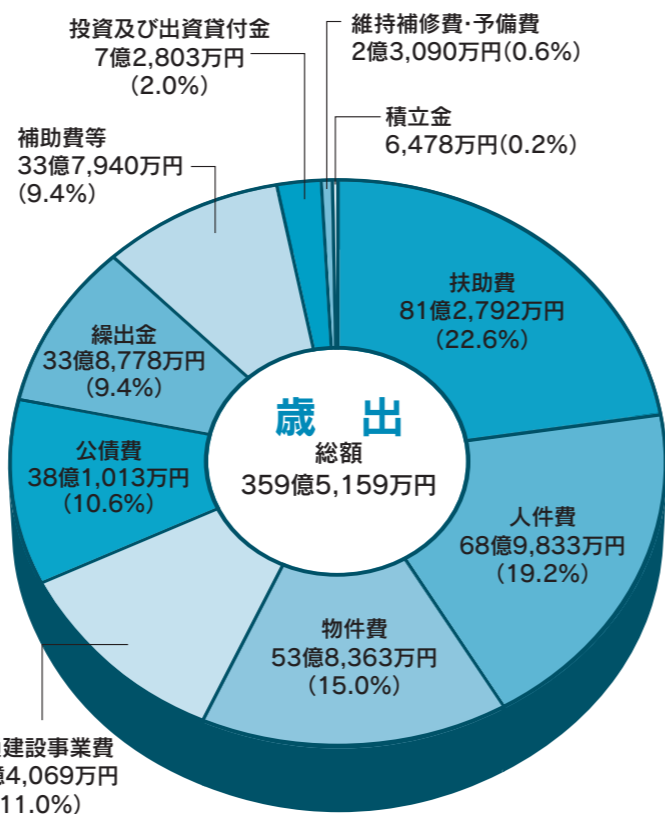
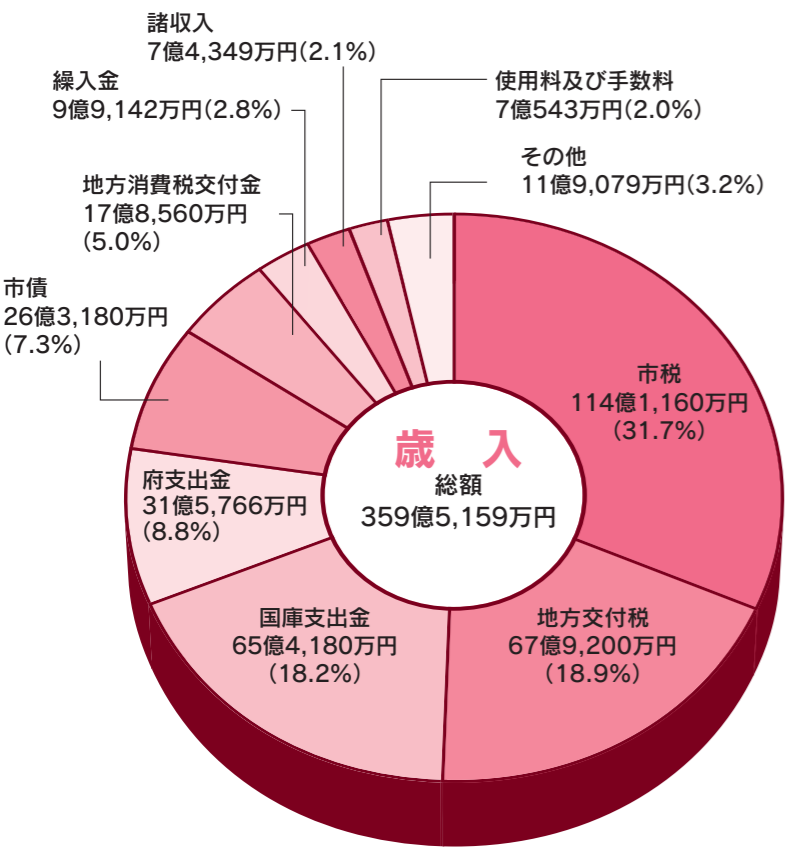
令和4年度は、第7次総合計画・前期実行計画の最終年度で、後期実行計画につながる重要な年です。城下町、赤れんが、引き揚げなどの歴史・文化を生かしたまちづくりや、都市部と舞鶴をつなぐ海路、陸路のネットワーク強化など、国や府、教育機関、企業などと連携し、ビヨンド・コロナ社会の構築につながる「ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らし」の実現に向け、3つのまちづくり戦略で重点施策と位置付ける子育て、教育、医療、福祉、防災、地域経済の活性化などに戦略

的・効果的に取り組みます。

前年度よりも増額した予算としつつ、事業の推進にあたっては、魅力ある返礼品づくりなどによる「ふるさと納税」の利用拡大や、国・府などさまざまな機関の補助金の確保にも努めます。また、将来世代の負担を抑制し、経済事情の変動や災害などにもしっかりと対応できる体制を整え、健全で持続可能な財政基盤を将来世代に引き継ぐため、財政規律を働かせた戦略的な予算編成を行いました。

一般会計(予算) 359億5,159万円

前年度との比較 1億433万円 増↑



特別会計(予算)	184億3,666万円	前年度との比較 3億5,002万円 増↑
国民健康保険事業会計	79億628万円	1億9,168万円 増↑
貯木事業会計	200万円	10万円 減↓
駐車場事業会計	4,904万円	3,335万円 減↓
介護保険事業会計	90億769万円	1億249万円 増↑
後期高齢者医療事業会計	14億7,165万円	8,930万円 増↑
公営企業会計(予算)	117億3,110万円	前年度との比較 4億3,798万円 減↓
水道事業会計	33億8,780万円	4,800万円 増↑
下水道事業会計	72億7,265万円	4億9,695万円 減↓
病院事業会計	10億7,065万円	1,097万円 増↑



今年度予算のポイント

新型コロナウイルス感染症と向きあってきた約2年間で、私たちは生活様式の変更などの影響を受けてきました。引き続き感染予防と拡大防止に努め、皆さまの声を聴きながら事業や生活・暮らしを支援し、感染症に打ち勝ち乗り越える持続可能な「ビヨンド・コロナ社会の構築」と「ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らし」の実現に向け、令和4年度は未来への投資となる新たな事業展開などにも取り組む予算としました。

- 中保育所と私立中舞鶴幼稚園を機能統合した、公私連携幼保連携型認定こども園の整備
- フレアス舞鶴に舞鶴飯マザーズジョブカフェを開設
- 高い消防機能を備えた西消防署整備と東消防署の災害対応能力強化
- 行政手続のオンライン化を推進するDX推進事業
- 図書館整備の基本方針を示す基本計画の策定
- JR西舞鶴駅西口の公共交通機能集約に向けた駅前広場整備

